

# 社会変革の起点 比類なき 大学

— 北海道大学 —



**寶金 清博** HOUKIN Kiyohiro  
1954年生まれ、札幌市出身。1979年北海道  
大学医学部卒、医学博士。脳神経外科医とし  
て北大病院・民間病院に勤務。2013年北海道  
大学病院長に就任、2020年10月から現職。

## 北大の「今」

「北海道大学 財務報告書2021」をご覧ください、ありがとうございます。本報告書は、本学の財務全般に加え、2020年度の活動全体を概観していただくことのできる冊子です。毎年、北大の「今」を一読でご理解いただけますよう、内容・デザインともブラッシュアップして発行しています。特に、本年度は北海道大学の歴史的・地誌的特性を基盤として「比類なき大学」を目指す方向性をご覧いただければと願っています。

私自身も、この報告書の作成に携わった一人として、大学という存在があるべき理由を真摯に考える機会となりました。狭く

偏った視点かもしれませんが、ここで「大学が存在する理由」を私なりに考えていきたいと思います。そのうえで、本冊子を読んでいただければ、より深くご理解いただけるのではと考えています。

## 社会と知性の成立

ヒトが動物としての「群れ」から、次第に人間としての「社会」を形成していった経緯は、社会学の重要なテーマになると考えられます。私はこの分野の専門家ではありませんが、一神経

科学者の立場から次のように考えています。

生物種としての「ヒト」は極めて弱い動物であり、いわゆる食物連鎖の中では下位に属する動物と言えます。それが現在のような繁栄を極め、この星の食物連鎖の頂点に位置している理由は、発達した前頭葉から生み出される「知性」の成果であることは疑いがないと思われます。因果関係を単純に考えることはできませんが、「社会」と「知性」は表裏一体となって発達していったと考えています。

ここで、少し理屈めいた解説を加えさせていただくと、原始的な自然状態で捕食動物に脅かされる環境下では、ヒトは五感でつねに外界を警戒しており、現在のような「知性」を発達させることは困難であったと考えられます。「群れ」を作り、その中で一定の期間護られ、生存を脅かされる危険のない状況下に置かれることで、はじめて身を護るために不可欠であった五感の感度を下げることが可能となります。

私ども神経科学者は、五感の中樞が脳の中心部にある「視床(タラムス)」という部位にあることと考えています。視床への外界の情報流入を遮断すること(視床ゲート機構)が、いわば「没頭」の状態を作り、他の動物にはない極めて高い「知性」「想像力」をヒトにもたらしたのではないかと考えています。

## 大学の成立

このようにしてヒトは社会を形成していき、その中心部に「知性」の拠点を築きあげ、生物圏の頂点に立つこととなりました。紀元前数千年の中国・ギリシャの時代から、文明社会が生まれるとともに大学(アカデミア)が形成されたのは、偶然ではないと思われます。

外部からの脅威やリスクから護られることで、知的な没入状態が生まれる場所を作り、人文科学・社会科学・自然科学を発展させていったことが、生命体としての社会の「知性」の発達へとつながっていったのではないのでしょうか。社会全体を一つの人間の個体に当てはめると、生存危機のリスクから遮断され

「没頭」することができる大脳、前頭葉として大学(アカデミア)が形成されたと考えられます。

## イノベーションの起点

欧米の産業革命以降におけるイノベーションの中核に「大学」が位置していたことも、このように考えると自然に理解できます。社会変革のための知的集積の起点として、大学は社会にとって必要不可欠な装置になっていると言えます。

大学には、そのサンクチュアリ的な成立過程から、閉鎖的な「象牙の塔」化していったという批判もあり、私ども大学関係者は深く自省しなくてはならないと思っております。今後、大学はそのように優先的な環境に甘んじることなく、社会がさらに発展し、そこで暮らす人々がより幸せな生活を過ごすための責務を負っていると考えなければいけません。

日本においても国立大学の法人化以降、大学が独立した思索と研究の場であることと同時に、社会が生存し続け、持続的な発展を目指すために連携の拠点となることは、このようなアカデミアの成立の起源を考えれば、まさに必然の帰結と言えます。私は大学を見れば、その国や社会の在り方、さらには総合的な文化のレベルを知ることができると考えています。

本冊子、「北海道大学 財務報告書2021」をご覧ください、この国と地域における社会変革のための知的集積の起点として、本学がどのような活動を展開しているかをご理解いただけますと幸いです。また日頃のご協力とご支援への感謝を申し上げますとともに、引き続き本学へのご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第20代 北海道大学総長

寶金 清博